

山梨県がん対策推進協議会
座長および各委員の皆様

2023年3月23日
NPO 法人がんフォーラム山梨
理事長 若尾直子

令和4年度第2回「山梨県がん対策推進協議会」意見提出

全体目標を念頭に置いての提案

指標として掲げた「75歳未満年齢調整死亡率を10年前に比べ概ね2割減少させ続けていく」ためには、前回は資料を提出したとおり、「胃がん」「肝臓がん」の死亡率減少だけではなく、がん検診でオプション的扱いとなっている「乳がん」「子宮頸がん」、および「希少がん」「固形がん以外の悪性新生物」の死亡率減少を達成しなければならない。また、「がん対策基本法」に記されている通り、山梨県のどこに住んでいても、等しくその患者にとって最適・最善のがん医療を受けられるよう人材育成・医療従事者の適正配置・連携・県民力向上等が求められる。そのために**山梨県及び関連機関**に、以下の4点について意見提出を行う次第です。加えて、がん診療連携協議会の役割重点化を受け、その存在を明確化し、拠点病院連絡協議会等のあらゆる局面において（部会を含む）、当事者の参画（PPI）を具現化させることを提案いたします。

1, がん予防の充実

- コロナ禍で一時的に減少したがん検診受診率だが、2021年には回復の兆しが見えている（「第37回がん検診の在り方に関する検討会資料1」参照*）。この傾向をより加速させるために、住民がん検診および、職域でのがん検診においてオプション的位置づけとなっている「乳がん」「子宮頸がん」検診の在り方を検討し、女性のためのヘルスリテラシー向上を目的とした新たなステージに立ったアクションプランを作成する。

2, がん医療の充実

- ゲノム医療等、最適最善のがん医療が、各医療施設・地域の「かかりつけ医」およびがん領域関連団体等と共有できるよう、「山梨県拠点病院連携協議会」および「関連

部会」の充実と協議内容の公開が必要。これらの組織には、患者・家族・遺族等当事者が参画できる仕組み（PPI：AMED 参照）を構築していただきたい。

- がん医療の充実は、遺伝子情報を視野に入れた 6 部門（若尾別添資料 1）を 2 拠点病院で重点的に充実させ、該当者にあった医療施設の選択が、わかりやすく適切に県民に情報提供できるような体制整備を行っていただきたい。
- 高度急性期、移行期、慢性期、療養期等、切れ目のないがん治療・療養ができるよう、罹患率の多いがんにおいては、BCP を念頭に、地域連携マップの作成を期待する。

3, 基盤の整備

- 質の高いがん医療を提供するため、現状を共有（若尾別添資料 2）し、第 3 期がん計画実施期間の残された一年で、患者視点で感染症等の危機管理も含めた実現可能で継続的な（机上論ではなく）がん医療体制の整備を構築する。

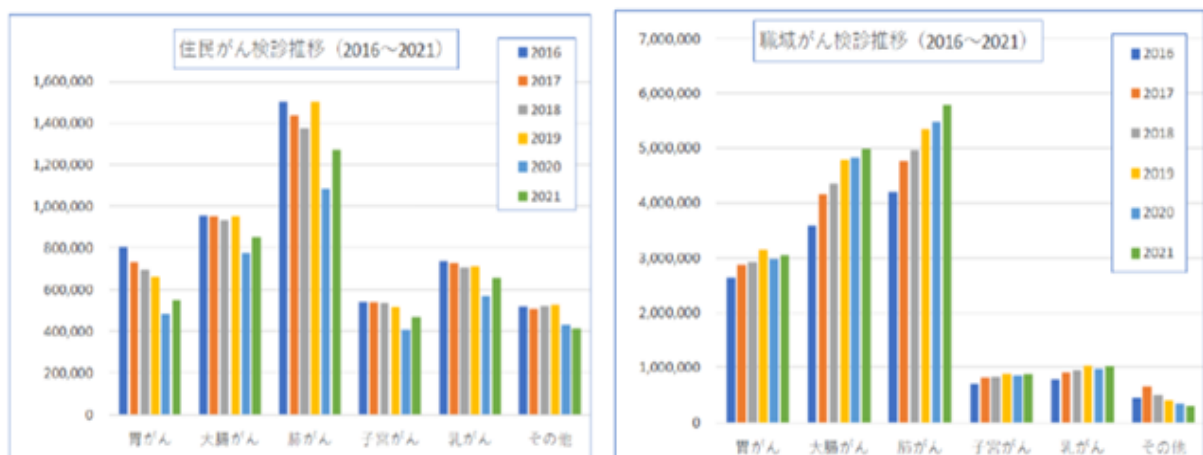
4, がん教育

- 子どもの時から科学的根拠に基づいた「がん教育」を、教育庁、福祉保健部、検診施設、体験者等と連携し、情報共有しつつ均てん化した内容で推進していきたい。

以上残すところあと一年となった第 3 次山梨県がん対策推進計画総括にむけ、よろしくお願いたします。

がん検診受診者数の推移（全国労働衛生団体連合会会員機関）

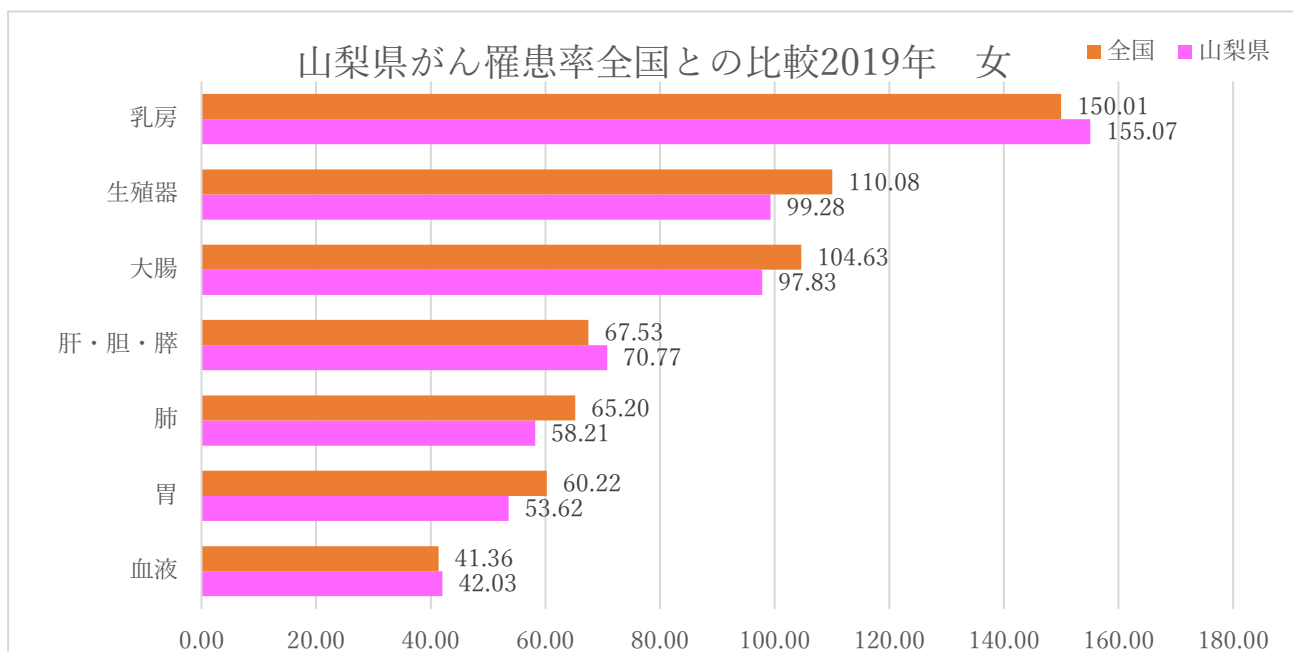
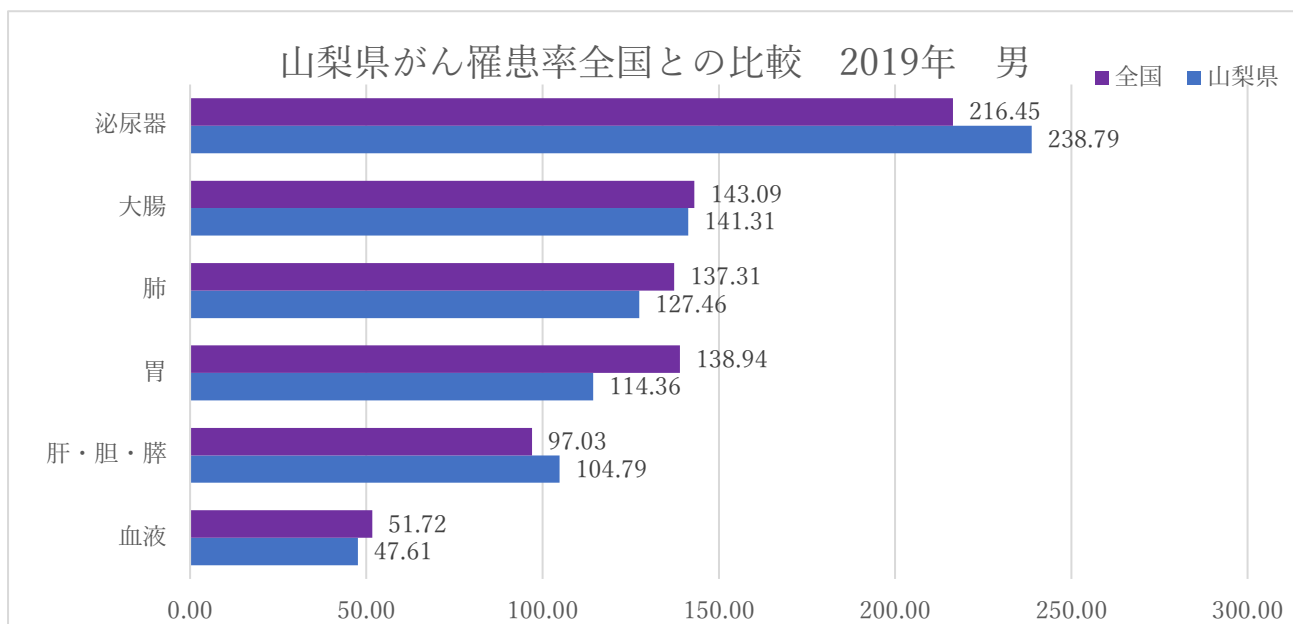
※ 第 37 回がん検診の在り方に関する検討会資料 P-6(住民がん検診受診率と職域受診率年次推移)



「我が国に多いがん」の捉え方を、従来の「5 大がん」に縛られず、現実に即した臓器別で全国と比較すると、以下のように示される（男女別）

出典：全国がん登録都道府県別資料 2019 年

山梨県のがん診療連携拠点病院（山梨県立中央病院及び山梨大学医学部附属病院）では、以下に示す「がん」の治療をより充実させる必要があるのではないかと。そのために、人材育成を行っている機関では、山梨県全域を視野に入れた医師の適正配置を行うことが求められる。そこためにも、患者を含めたがん診療連携拠点病院協議会での意見交換が必要だと思われる。



- ※ 泌尿器系 = 前立腺+膀胱+腎・尿路
- ※ 血液系 = 悪性リンパ腫+多発性骨髄腫+白血病
- ※ 婦人科系 = 子宮頸部+子宮体部+卵巣

出典：山梨県におけるがん診療連携拠点病院・診療病院の院内がん登録 2021 年（2023 年 1 月公開）

本資料は、コロナ禍での山梨県がん罹患者の現状と置き換えることができる。

この環境下、「がん検診」受診者が減少する中、それぞれの拠点病院等の努力でがん医療が提供されてきた。関係者のご尽力に感謝申し上げます。

公開された院内がん登録による結果のみなので、緻密な調査とは言えないまでも、コロナ禍であることを考慮すると、国の動向と同様に（第 37 回がん検診の在り方検討会資料 1）、院内がん登録者数は回復の傾向にあると言える（必要な診断をうけ、登録されていることを示す）。

以下のグラフは 2021 年の院内がん登録結果であるが、各施設担当医一人あたりの患者数はどのようになっているのだろうか。早急に返答をいただき、次年度本協議会で結果の共有と対策を協議したい（医務課へのお願い）。

図 1) 大腸がん

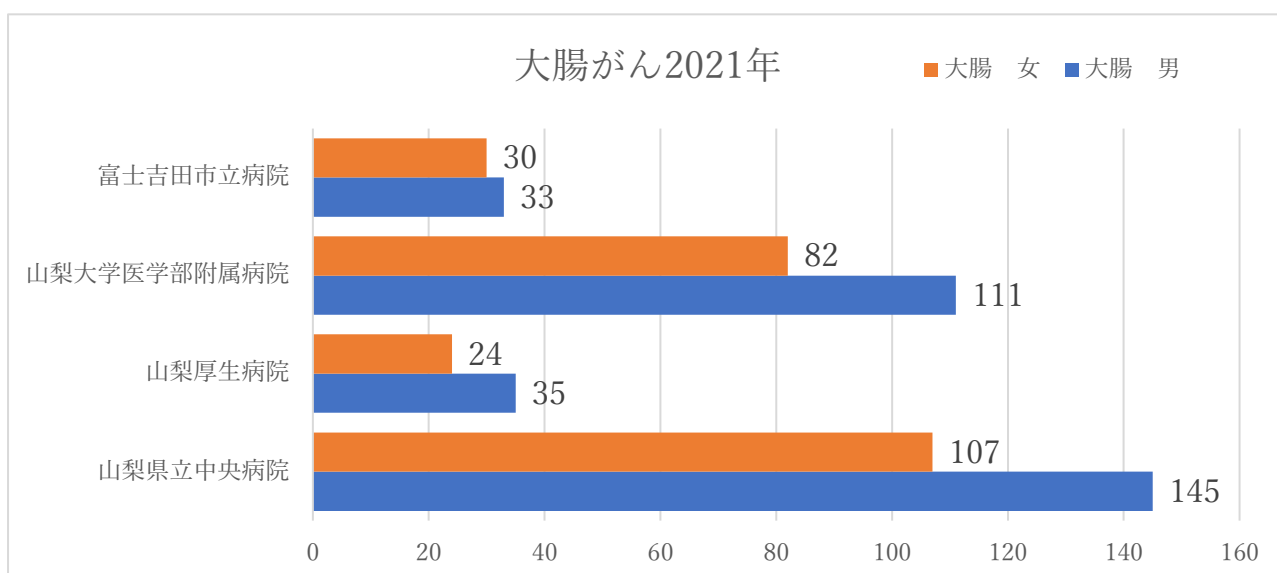


図 2)

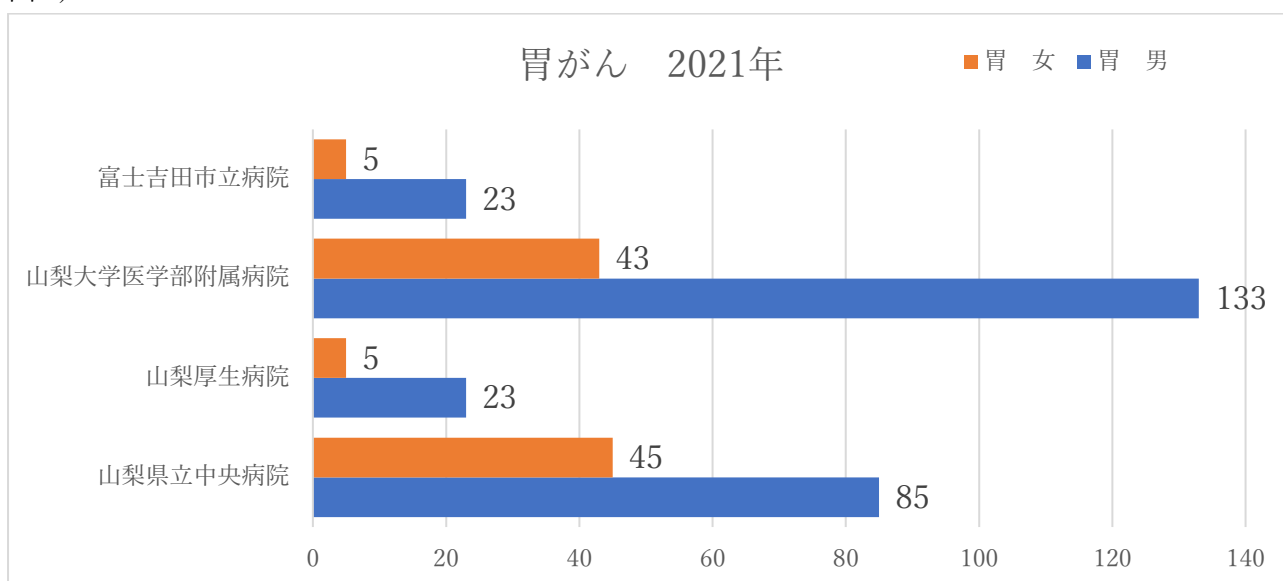


図 3) 肺がん

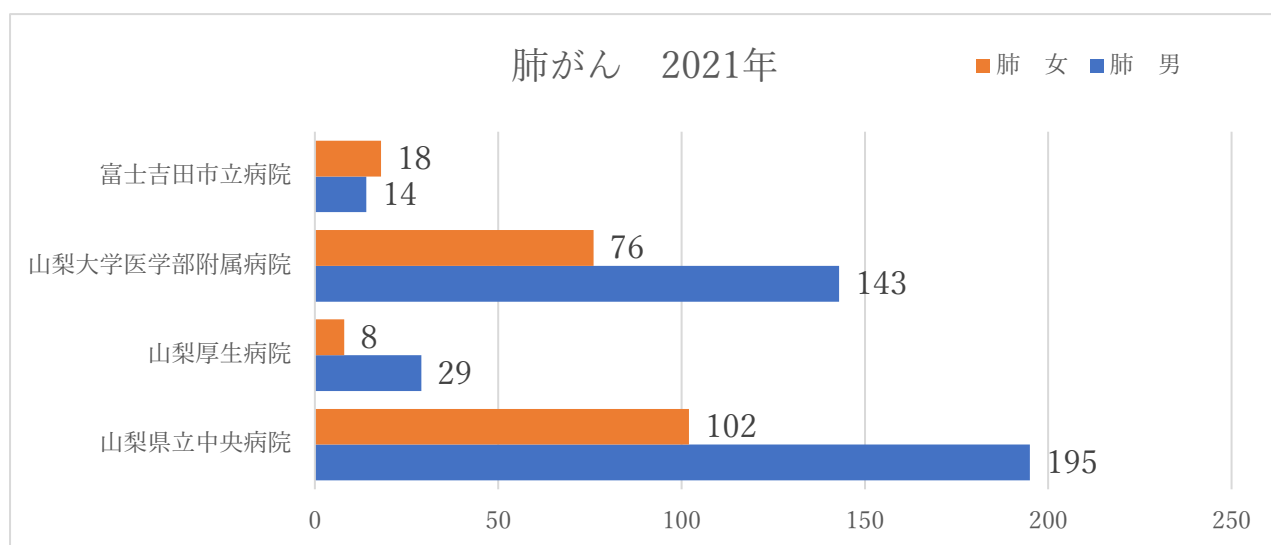


図 4) 乳がん

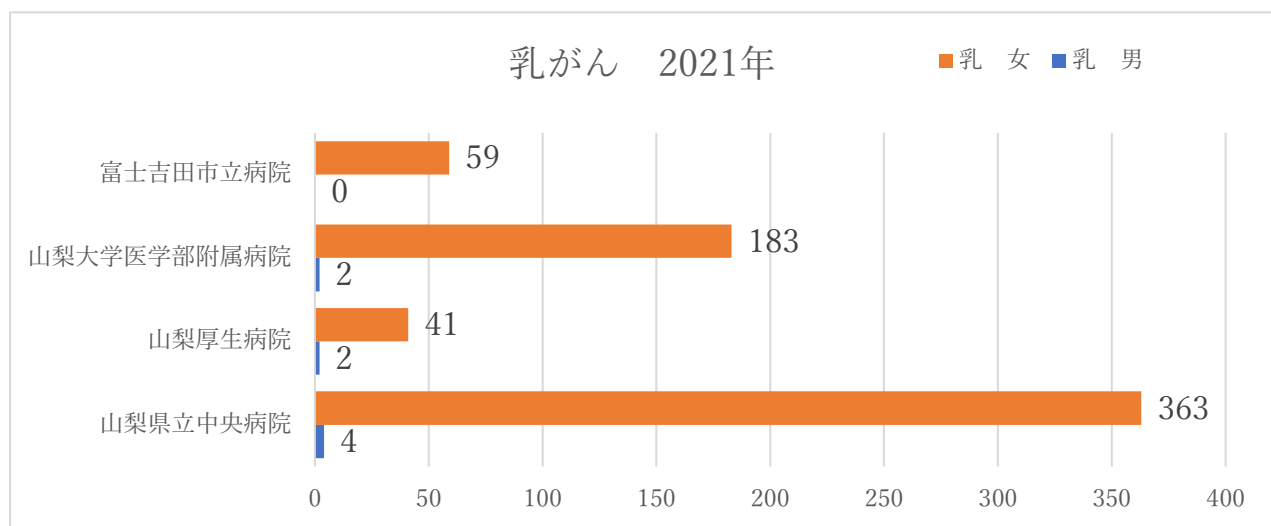


図 5)

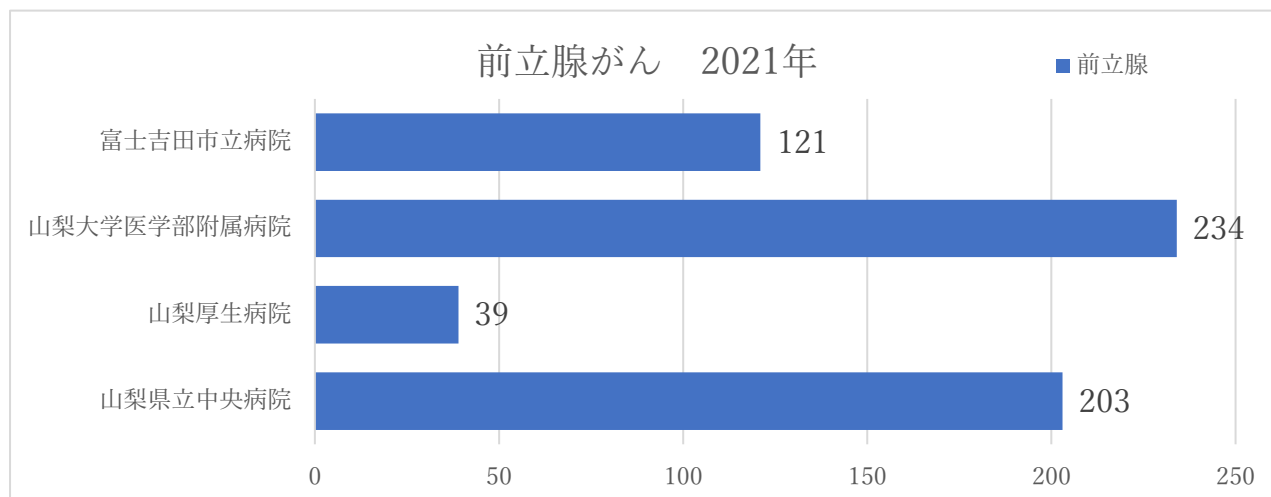


図6) 子宮頸がん（上皮内がん等を含む）

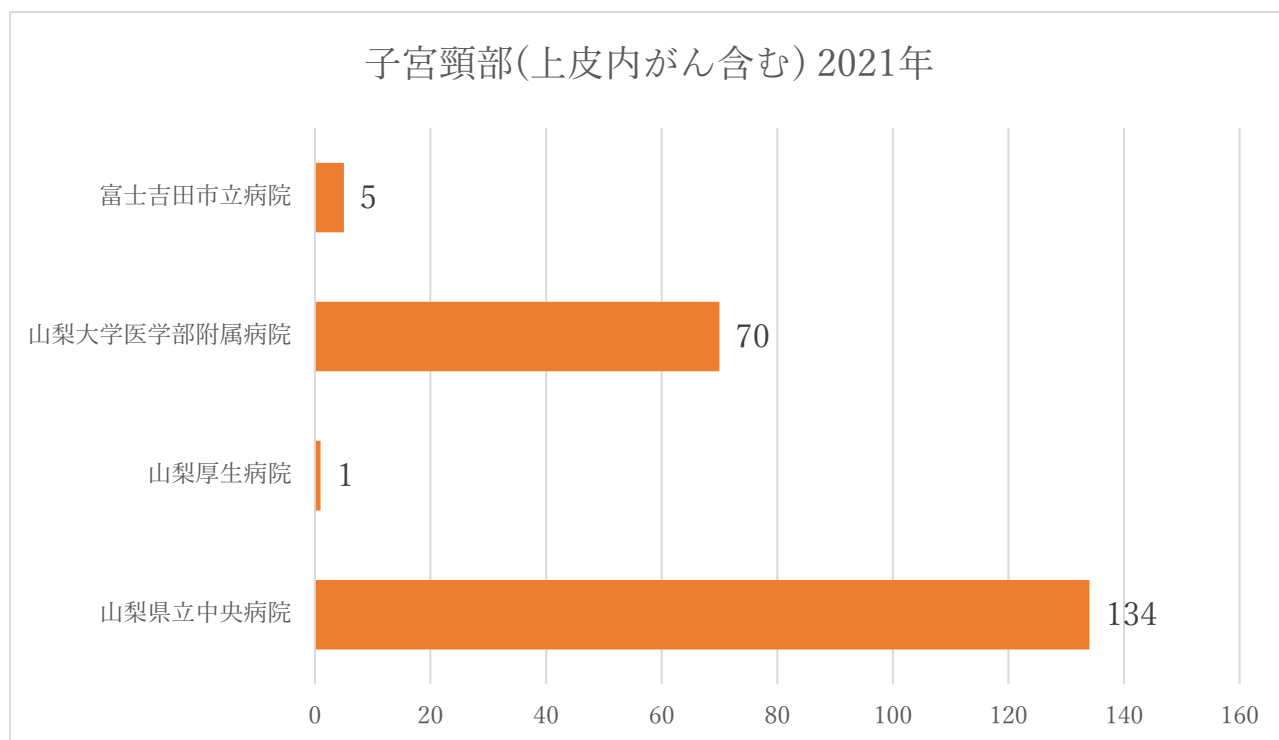
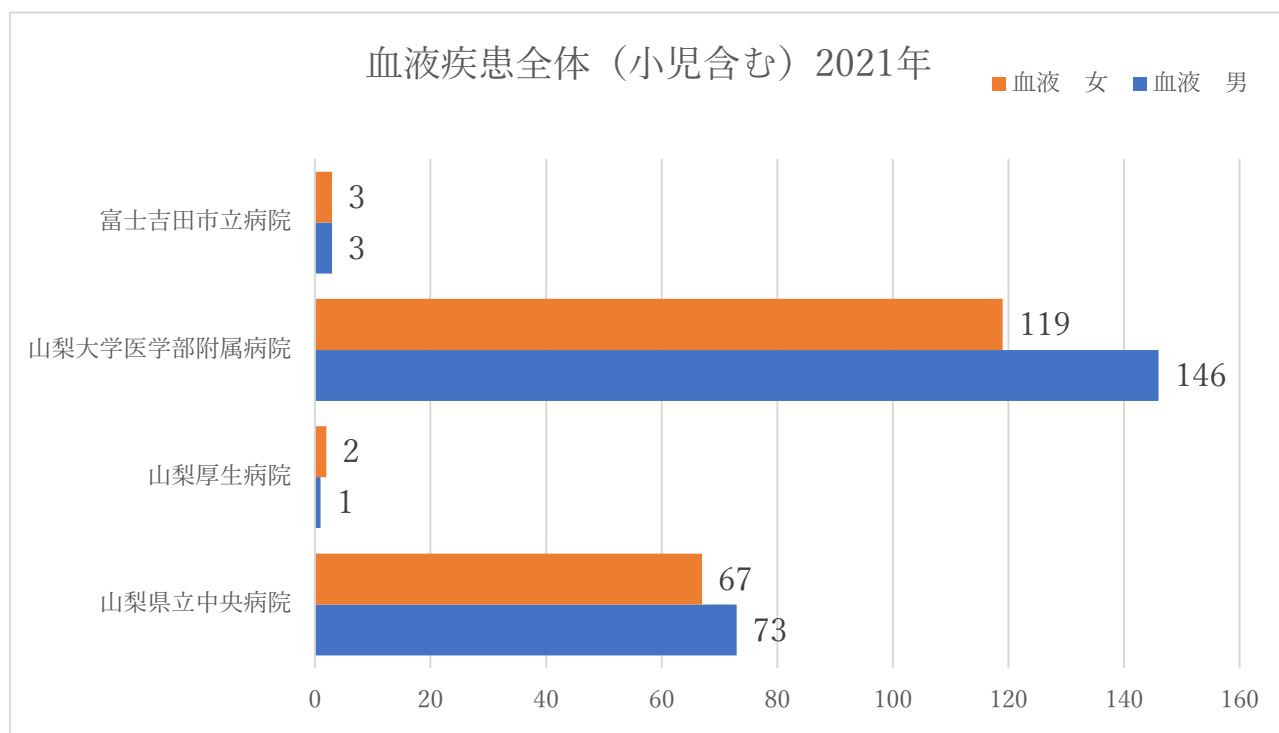


図7) 小児を含む血液疾患全体（悪性リンパ腫+白血病+多発性骨髄腫）



【血液疾患全体の内訳】血液がん院内がん登録 2021年 明細

